

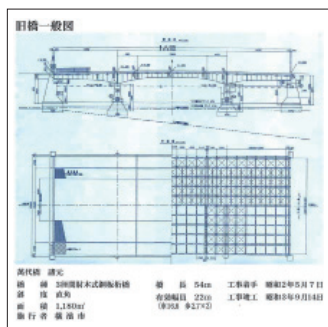
横浜市中央市場前の震災復興橋梁・旧万代橋の拡幅・架替え（橋梁本体構造は新形式）に伴う「歴史的意匠の継承」を図るべく、残されたオリジナル親柱基壇や周囲に残る高欄の痕跡を実測調査するとともに、各種震災復興にかかる文献や当時の図面や写真などから各種製作図・設計図書を作成し、意匠のイメージ復元を図ったもの、具体的には、石の基壇の親柱と傘部への照明組み込みは当時の白熱灯から寿命の長いコンパクト蛍光灯を使用、高欄は歴史的意匠を踏襲しつつ現代の基準に適合する形状とし、舗装の御影石は極力往時の形状に復元した他、橋詰広場の新たに歩車道境界部に歴史的意匠に配慮したオリジナルの車止めを設置している。
色彩は解体前の橋梁本体の塗料表面こそり出しによって、オリジナル色はグリーングレー色と判明し、橋梁本体や高欄の色の復元をおこなった。



震災復興橋梁・旧「萬代橋」の解体前写真



復元された万代橋の橋面



旧橋（震災復興橋梁）の設計図・諸元



新「万代橋」に継承された耳珩・高欄



復元された万代橋の橋面



復元された万代橋の橋面



復元された万代橋の橋面の石畳と新しい車止め



復元された万代橋の親柱照明



新「万代橋」竣工時のパンフレット

諸元 所在地：横浜市神奈川区栄町、山内町 事業主体：横浜市 構造形式：鋼1径間単純非合成箱桁橋 橋長：41.0m 支間長：40.1m 幅員：25.8m 歩道
舗装：白ミカゲ一部旧舗石再利用 照明：コンパクト蛍光ランプ（親柱照明灯） 高欄：鋼製高欄 車止め設置工：鋳鉄製車止め 構造設計：東京エンジニア
リング 施工：（下部工）東洋・山岸・同鉄JV、（上部工）日本鋼管（株） 工期：'99.9～'02.12／事業費：約12億円 担当 中野、星野